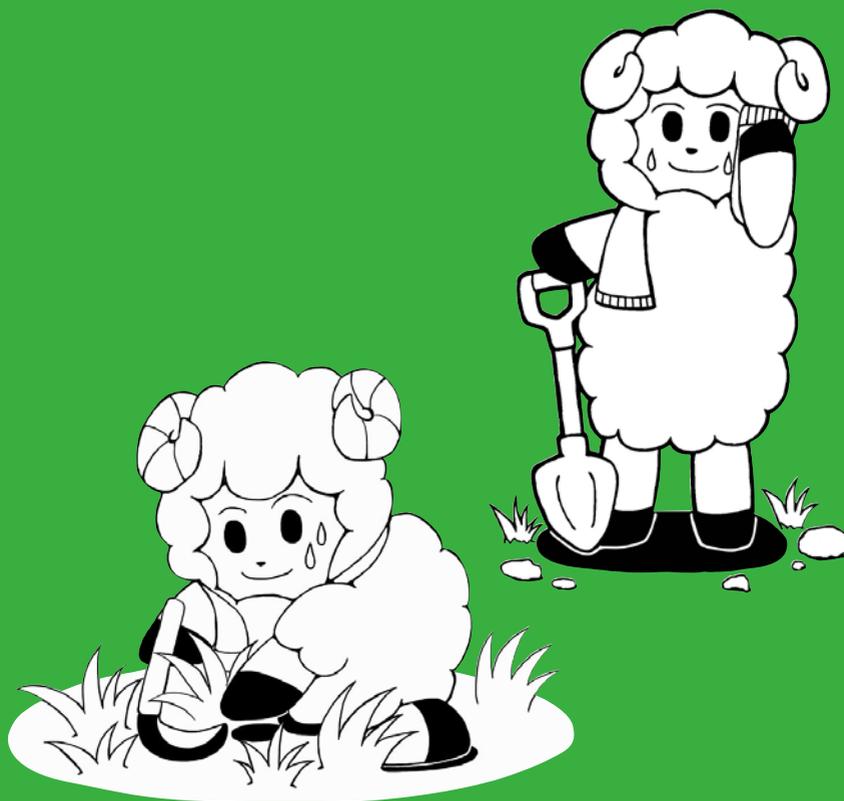


2017年度

西南学院大学 ボランティアガイドブック

Seinan Gakuin University Volunteer Guidebook



西南学院大学
ボランティアセンター

目 次

はじめに

センター長挨拶	1
ボランティアセンター（通称：ボラセン）とは？	2
ボランティアって、なんだろう？	3
ボランティア活動について（相談～活動までの流れ）	4
ボランティア登録について	5
ボランティア活動の心構え	5

ボランティア活動

①ちよこボラ（ちよこっとボランティア）	6
②東日本大震災ボランティア	8
③熊本地震ボランティア	9
④海外ボランティア	14
⑤学生サポーター	16
⑥他機関連携	17
⑦学内ボランティア	21
⑧学外ボランティア	24

学生グループ活動（サークル紹介）

(1) OPEN	29
(2) のびっこの会	30
(3) 学生YM(W)CA	30
(4) 西南ラブ・グリーン	31
(5) ワークキャンプ部	31
(6) 手話サークル とびうめ	32
(7) いと	32
(8) 西南FIWC九州	33
(9) Think & Act	33

そ の 他

学生ボランティア団体助成	34
印刷機・紙折機・裁断機の使用(無料)について	34
活動室の利用について	34
社会福祉協議会(社協)	35
2016年度ボランティアセンター活動記録	36

はじめに



ボランティアセンター長 石森 久広

西南学院大学にご入学おめでとうございます。皆様のご入学を心からお祝いし、歓迎いたします。これから始まる学生生活、友との出会い、師との出会い、学問との出会いの中で、豊かな時間を過ごしてください。

本学では、ボランティア活動を建学の精神である「西南よ、キリストに忠実なれ」の具現化並びに大学の社会貢献の一つと位置づけ、学生・教職員等によるボランティア活動を支援・推進する部署としてボランティアセンターがあります。ボランティアセンターは、さまざまなボランティアの情報を提供し、皆さんの相談に応じています。お弁当容器やペットボトルキャップ、古本や古切手などを提供する身近なボランティアから、学生サポーターで地域の小・中学校で活動するボランティアや重度障害児者施設の久山療育園でのボランティアもあります。

本学では、東日本大震災が発生した後から毎年継続してボランティア活動していますが、昨年度も東北に3チーム・35名の学生・教職員を送り出しました。また、昨年度には熊本地震が発生したため、東北での活動経験を活かし、ボランティアを送り出しました。7チーム・131名の学生・教職員が活動しました。帰福後も募金活動やチャリティイベントなどの活動を福岡で展開しています。さらに、海外に目を向けると、フィリピンへ派遣する海外ボランティア・ワークキャンプが2003年度から実施されており、昨年度は18名の学生・教職員が活動しました。他にもガイドブックに紹介しているボランティア活動のサークルもあり、皆さんの参加を心待ちにしています。学内だけでなく、学外からのボランティア依頼にも対応していて、多くの学生たちが活動しています。

ボランティアは、子ども・高齢者・地域・環境・国際交流など、幅広い分野で展開されています。大学在学中にボランティア活動をすることで、同年齢だけでなく、乳児から高齢者まで、多くの幅広い年齢の方々や仲間と出会い、社会・地域・施設・行政・企業などとの出会いがあり、視野が広がることでしょう。自分に合う活動を見つかることで、自分自身をみつめる良い機会となり、自分の新たな一面と出会えるかもしれません。

ぜひ、大学入学を機会にボランティア活動を始めてみてください。ボランティアセンターは、皆さんをいつも応援しています。

ボランティアセンター（通称：ボラセン）とは？

ボランティアセンターは、ボランティア活動を建学の精神の具現化並びに大学の社会貢献の一つと位置付け、学生、教職員等によるボランティア活動を支援・促進することを目的としています。センター内には、職員が常勤していますので、ボランティアをするのが初めての方や迷っている方など、どなたでもお気軽にご相談ください。

- 【場 所】 ボランティアセンター事務室：1号館 2階 エレベーター横
TEL 092-823-3662 FAX 092-823-3335
E-mail：swvoc@seinan-gu.ac.jp
- 【開室日】 通常期間 月～金 8:45～17:20
(長期休暇中や行事などで閉室する場合があります)
- 【休室日】 土曜日、日曜日、国民の祝日、学院創立記念日、クリスマス、
年末年始、その他大学が特に定める日
- 【サポート】 ボランティア活動に関する相談、情報交換会の開催、
ボランティア情報・関連する講演会やイベント情報の発信、
ボランティアグループとの懇談会



【ボラセンが企画するボランティア】

- ・東日本大震災ボランティア
- ・熊本地震ボランティア
- ・緊急災害ボランティア
- ・他機関との連携企画
- ・学内ボランティア
- ・海外ボランティア
- ・学生サポーター
- ・久山療育園ボランティア
- ・ちょこっとボランティア
- ・その他

【学内外からの主な依頼】

- ・学内の各部署が募集するボランティア
- ・イベントのお手伝い（障がい者施設・高齢者施設・学内など）
- ・リサイクル、ゴミ拾い
- ・街頭募金活動
- ・地域活性化活動（商店街など）
- ・その他

ボラセンからメッセージ

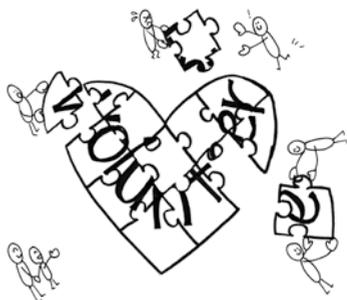
ボラセンのスタッフは、アドバイスするだけでなく、皆さんと一緒にボランティアや活動について、考えていきたいと思っています。まずは、いつでも気軽にたずねてきてください。皆さんとお話できるのを楽しみに待っています！



ボランティアって、なんだろう？

高齢者や障がい者、困ってる人の手助け？善意あるお手伝い？
どれも大事なことだけど、専門知識もないし、何だかすごいこと
ようで、想像すればするほど、難しそう・・・
なんて思っている人は多いのではないのでしょうか。

それでは、今までにこんな経験はありませんか？
バスの中で自分の席の前にお年寄りが・・・
『席をゆずろうかな、どうしようかなあ・・・』と
ソワソワした経験。
荷物を沢山抱えた人がドアの前で困っている・・・
『扉を開けてあげよう！』と駆け出した経験。



“ほっとけない”“あの人の為に何かしたい・・・”そんな、くすぐったいような、もどかしい
ような、モヤモヤした感覚。それこそが、ボランティアの種。皆さんの心にそっと芽生える
“ボランティアの種”を大事にして、育て、勇気を出して一歩前へ踏み出してみましょう。
“誰かのために”歩みだしたことが、結局は“自分にも何か与えられている”その2つが同時
に起こる素敵なことが「ボランティア」なのです。

ボランティア活動の4つの原則

自発性・自主性

～「やりたい！」想いと初めの一歩を大切に～

ボランティアは、自分の“やりたい！”想いを形にして始める活動であり、他からの強制や義務で行う活動ではありません。決めるのは自分自身なので、積極的に行動できます。自分の想いを活動として表現するので、人の心に働きかける力をもっています。



無償性・無給性・非営利性

～お金では買えない目に見えない心の財産～

ボランティアは、活動を通して、お金では得ることができない達成感や感動、仲間との共感、新たな出会い、気づきを得ることができます。個人的な利益や金銭的な報酬を期待するものではありません。
(ただし、交通費や食費、材料費などの実費弁償は、有償とはみなしません。)

先駆性・開拓性・創造性

～アイデアから、より良い地域や社会を創ろう～

ボランティアは、目の前にある必要なことに、すぐ手を差し伸べ取り組むことができます。今ある仕組みや発想にとらわれず、何が必要とされているのかを考えて、新しく創り出し、新しい仕組みやサービスを生み出すことができる活動です。結果的に先駆的で開拓的な分野や活動を担うことになります。

社会性・公益性・連帯性

～みんなのために、みんなで支え合おう～

ボランティア活動は、一人ひとりの人間を大切にすると共に、だれもがいきいきと豊かに暮らせる社会を目指しています。社会にはさまざまな課題があり、すべての課題を自分一人で解決することは難しいです。多くの人と出会い、つながり、協力しあい、学び合って、共に課題を解決する活動です。

ボランティア活動について（相談～活動までの流れ）

①ボラセンに行ってみよう！ （1号館2階エレベーター横）

ほとんどの人が、大学生になって初めてボランティアをしています。ボラセンでは、初めての人を対象に講座なども開催しているので、自分に合う活動や講座と一緒に探しましょう。



※ボランティア登録をしよう！
（5ページ参照）



②自分にあうボランティア活動に参加してみよう！

参加したい活動が見つかったら、各自で団体に申し込みましょう。いよいよ、ボランティア活動の始まりです。申込後は、各自で大学生としての自覚と責任をもって参加し、急に参加できなくなった場合も、必ず自分でお詫びの連絡をしましょう。困ったことが起きたら、ボラセンへ相談してくださいね。



※ボランティア活動保険に加入しよう！
（24ページ参照）



③ボランティア活動について報告しよう！

活動が終了したら、ボラセンまで体験談をお寄せください。皆さんの体験談が、次にボランティアをする方への情報源として活用されます。



※ボランティア登録をしている方は Moodle 上で活動の報告ができます！

ボランティア登録について

ボラセンには、学内外から様々なボランティアの依頼があります。これらの依頼内容は、ポータルにアップしたり、ボラセンの掲示板に掲示しています。なお、ボランティア登録をされた方には、定期的にボランティア情報をMoodleからメール配信しています。ぜひ、次の方法で登録をしてください。

※ボランティア登録は、年間を通して受付をしています。
(登録料・会費などは、一切かかりません。)

【登録方法】

E-mail swvoc-vol@seinan-gu.ac.jp 宛に
タイトル 「ボランティア登録」
本文に ①在学番号 ②氏名
をご記入の上、送信してください。
※メールは、在学番号のアドレスへ配信いたします。



《ボラセンのHPからも登録できます。》

ボランティア活動の心構え

1、無理せず、背伸びせず、楽しく継続

ふだんの暮らしに支障が出る活動は、長続きしません。自分の出来ることだけでなく、出来ないことについても活動先には伝え、自分に合った活動を選びボランティア活動を楽しみましょう。

2、最低限のマナーは守る

小さなことでも、活動先との約束は必ず守りましょう。特に時間厳守を意識し、遅刻や欠席の場合は、必ず各自で責任をもって活動先に連絡してください。突然、連絡が途絶えると、活動先は困ります！最後まで「西南学院大学の学生」である自覚をもって、行動しましょう。

3、身だしなみの確認

申込みの際、活動中の服装についても事前に確認し、特に、必要以上のアクセサリーは外して活動しましょう。活動前にもう一度、自分の身だしなみをチェックするよう心がけましょう。

4、秘密厳守（個人情報）

活動を通して知り得た個人情報は口外してはいけません。逆に、自分の連絡先も活動先の担当者以外に、みだりに教えてはいけません。また、安易に写真を撮ることは控え、活動先の許可を得てから撮影しましょう。

5、お互い気持ちよく、信頼関係を築こう

様々な思いの人たちが、いろいろな役割で関わっています。相手を尊重し、協力しながら、コミュニケーションを深め、信頼関係を築いていきましょう。



ボランティア活動

① ちょこボラ（ちょこっとボランティア）

今すぐ始められ、身近なところから自分のできることを無理なく楽しくマイペースにお手伝いできる「ちょこボラ」をご紹介します。

(1) 被災地を応援するボランティア

① 災害支援金

被災地に災害支援金を送ろう！

本学では、災害支援金を募って被災地へ届けています。

日本パプテスト連盟の被災者救援募金・熊本県義援金 ほか

※寄付金控除の対象外です。

【口座】 西日本シティ銀行西新町支店
普通 1569416
「学校法人西南学院義援金口」

※本・支店窓口(ATMを除く)から振り込む場合は、振込手数料は不要です。



② お弁当容器の回収（災害支援金に協力できます）

お弁当容器を回収し、被災地に災害支援金（現在、熊本地震被災地）を届けよう！

リリパック回収による払戻金が東日本大震災の被災地へ送る災害支援金になります。お弁当を食べ終わったら、赤い（もしくは黒い）フィルムをはがし、白い本体のみを回収ボックスへ！割れても大丈夫です！

弁当容器1個が10円の災害支援金として募金されます。

※生協、すずらんで販売されているお弁当のみ

【回収ボックス設置場所】

1号館：2・3階エレベーターホール、

2号館：学生ホール、2階廊下、学術研究所1階ロビー、

西南クロスプラザ1階、西南会館…生協食堂、西棟1階ラウンジ



(2) ペットボトルキャップの回収

ペットボトルキャップを回収し、世界の子どもたちにワクチンを届けよう！

飲み終わったペットボトルのキャップは、回収ボックスへ！

ペットボトルキャップ約2000個のリサイクル対価が、

一人分のポリオワクチン（約20円）に相当します。

※リサイクル対価は市況によって変わる場合あり。

【回収ボックス設置場所】

本館、1号館2階入口、1号館3・4・5階の休憩室、2号館2・3・4階、
4号館1階、西南会館、体育館前、生協食堂、クロスプラザ、2号館学生
ラウンジほか



(3) 寄付本★プロジェクト

自宅で眠っている不要本を寄付して、奨学基金へつなげよう！

不要となった古本などを寄付し、奨学基金へつなげるプロジェクトです！

【回収ボックス設置場所】

学術研究所、コミュニケーションプラザ各階ロビー、
法科大学院事務室内、1号館2階ボランティアセンター
※業者の回収は、原則、第1火曜日です。

《対象となるもの》

専門書～趣味の本までOK・書込みされた本もOK
CD・DVD・ゲームソフト

《対象とならないもの》

(書 籍) 百科事典・同人誌・新聞・個人出版の本・復刻マンガ
(CD/DVD) ケースがない・サンプル・規格品番なし



(4) カンボジア支援（文房具ほか）

SIEC(西南国際教育協力隊)の取り組みについて

カンボジア支援プロジェクトは、毎年3月と11月に年2回カンボジアに渡航して教育支援を行っています。日々の活動では寄付(赤白帽子、ノート、筆記用具etc)を募ったり、他大学と共同で会議を行ったりして、渡航が迫ると、運動会や授業の準備を行い渡航に備えています。現地では、都市部にある学校から郊外にある学校まで幅広い地域の学校で運動会や授業を行っています。

【文房具回収ボックス設置場所】

ボランティアセンター前・西南会館・5号館
心理学実験室前

人間科学部 心理学科 曾川薫葉

私は、2016年の3月にカンボジアに渡航しました。日本で募った文房具などは、運動会や授業に参加してくれた子ども達に参加賞として一人ずつ手渡しします。袋から文房具を出して、ノートや鉛筆を見た時の子ども達の輝いた笑顔は今でも忘れることができません。私たちの活動は、多くの人に支えて頂いて成り立っています。今後も感謝の気持ちを忘れず、カンボジア支援を続けていきたいです。



(5) その他（古切手・書き損じハガキ）

使用済み切手、書き損じハガキなどを福祉活動や発展途上国の支援活動に役立てよう！

①古切手（使用済み切手）

封筒やハガキに貼ってある切手を、消印のスタンプ切手周囲1cmを残して切り取り、回収ボックスへ！

②書き損じハガキ

年賀状や通常ハガキで、ミスプリントしてしまったものなど、回収ボックスへ！

【回収ボックス設置場所】

ボラセン前の備え付け回収ボックス



2 東日本大震災ボランティア

2011年3月11日14時46分18秒に起きた東日本大震災は、東北地方を中心として広域に渡って甚大な被害をもたらし、完全に復興するまでには、まだまだ時間がかかります。本学からも学生や教職員が、ボランティア活動を行っています。

2011年度	参加者	9チーム	102名
2012年度	参加者	10チーム	116名
2013年度	参加者	17チーム	133名
2014年度	参加者	16チーム	87名
2015年度	参加者	16チーム	92名
2016年度	参加者	3チーム	35名

6年間
延べ活動者
71チーム
565名

(1)日本バプテスト連盟を通しての活動

2011年9月から、毎年実施している活動。岩手県や宮城県の教会が毎月仮設住宅を支援されている活動の中で、一緒に活動します。

(2)大学間連携災害ボランティアネットワーク（事務局：東北学院大学）

2011年9月から、毎年実施している活動。全国109の大学が連携してネットワークを築き、全国から集まった学生たちと一緒に活動します。活動内容は、多岐にわたり、毎年、異なります。

(3)その他

福岡県主催の災害ボランティア養成講座など、連携先との事業で実施する活動などがあります。



商学部 商学科 重松佑里

(ラフファイヤーチーム：宮城県で活動)

初めは自分に何ができるのか、焦りや不安がありました。ボランティアとは一方的に支援することではなく、現地の方と共に活動し、支え合うものだということを学びました。建物や生活環境の整備だけが復興ではなく、心の復興がとても大切だと思います。何をもちて復興といえるのか、一人ひとり思い描く復興の形が違いため答えを出すことは難しいけど、震災のことを思い続け、考え続けること、活動を継続し、繋げていくことが大切だと感じました。

文学部 英文学科 荒瀬智子

(おシャベリチーム：岩手県で活動)

私が訪れた海岸沿いの大槌町はやっと道路が完成しそうだが、津波の危険性のある土地の上に何を建設すべきなのか決まっていなかったり、仮設住宅に住んでいる方がまだ沢山いらっしやったりと、復興は進みつつもまだまだ途中なのだ感じました。報道が少なくなった今、こういった東北の現状については現地に行ってみないと分からないと思います。また、私たちはいくつか仮設住宅でお茶っこという活動をさせていただきましたが、現地の方々は私たちの訪問をとても喜んでくださり、家族のように暖かく迎えてくださいました。きっと皆さんもボランティアに参加することで、人や地域に魅了されそこが第二の故郷になると思います。

③ 熊本地震ボランティア

2016年4月14日21時26分頃に、熊本県熊本地方を震源とする、マグニチュード6.5の地震が発生し最大震度7を観測。さらに、4月16日1時25分頃には、同じく熊本県熊本地方を震源とする、マグニチュード7.3の地震が発生し、この地震でも最大震度7が観測されました。本学からも学生や教職員を送り出し、ボランティア活動を行っています。また、ボランティア活動の前後には研修を実施しています。

(事前研修 → チーム研修 → ボランティア活動 → 事後研修)

第1回	5月2日～5月5日	引率1名・学生9名(10名)
第2回	7月16日	引率2名・学生21名(23名)
第3回	8月20日	引率3名・学生26名(29名)
第4回	9月17日	引率3名・学生26名(29名)
第5回	10月20日	引率2名・学生9名・同行1名(12名)
第6回	11月26日	引率2名・学生12名(14名)
第7回	12月10日	引率2名・学生12名(14名)

2016年
延べ活動者
7チーム
131名

(1) 熊本地震緊急支援

活動先: 熊本市災害ボランティアセンター本部(熊本県熊本市)
活動内容: 運営スタッフ



(2) 被災地NGO協働センターとの連携

活動先: 熊本県阿蘇郡西原村
活動内容: 足湯、花壇づくり、ひまわり畑作り、門塀屋根瓦・仮設牛舎の解体作業、お誕生日会、お茶っこ、食器市、木もくプロジェクト

(3) ふくおか学生熊本地震支援実行委員会 主催の活動

NPO法人ANGEL WINGSと北九州市立大学、西南学院大学が協議体を作り助成金を得て実施する熊本地震支援ボランティア。今後、福岡県内の大学生でネットワークを形成して活動を展開する予定。

活動先: 熊本県熊本市内の仮設住宅
活動内容: お茶会サロンやレクリエーションなど、被災された方々との交流。



法学部 法律学科 葉丸諒

自分の住んでいる福岡県のすぐ隣の県が地震により被害を受けたことを連日のニュースで見えており、私も何かお手伝いができればと考え、第一回熊本地震ボランティアに参加しました。活動前は地震発生から2週間しか経っておらず不安な気持ちもあったのですが、現地では強い揺れなどはなくスムーズに活動することができました。今回の活動によって被災者の方々を少しでも励ますことができたのなら参加して本当によかったと思っています。

国際文化学部 国際文化学科 松原奈央

私は熊本県出身ですが、まさか地元であんなに大きな地震が起きるなんて夢にも思いませんでした。住み慣れた家が倒壊してしまい狭い仮設住宅で暮らしている人や、いつまた地震が起きるかわからないため不安の中で生活している人が沢山いる事をこのボランティアで感じました。私は地元の復興のためにこれからも一緒に活動を続けていきます。ボランティア活動に参加したら必ず何か得る事があると思います。皆さんも一度参加してみませんか？

帰福後の活動(福岡からの被災地支援)

学生たちは、実際に被災地の状況を見て、感じ、被災地の皆さんと交流し、活動する中で、さまざまな想いを抱いて帰ってきました。学生たち一人ひとりの活動は「点」にすぎないけれど、みんなの「点」を集めれば「線」になるということを信じて活動してきました。学生たちは、東北や熊本での活動だけで終わらず、福岡でできることを考え、発信しています。

福岡での復興支援活動は、まだ東北や熊本に行ったことがない学生も参加できます。イベント当日のみの参加も可能です。まずは、自分でできることを考え、福岡で自分の「点」を残してみませんか？詳細はボラセンにお問い合わせください。

2016年度実績

(1) 東日本大震災ボランティア及び

熊本地震ボランティア活動報告会(1月12日)

2016年度東日本大震災ボランティア及び熊本地震ボランティアで活動した学生たちがチーム毎に発表しました。先輩たちから後輩たちへ、一人ひとりの「点」が、つながって「線」になっていることを実感しました。



(2) 活動報告

大学チャペルや神学部チャペルで講話(活動報告)を担当しました。また、西南学院教会、野方教会、平尾教会、大名クロスガーデン、長住教会、鳥飼教会、姪浜教会などバプテスト連盟の各教会でも報告しました。さらに、室見小学校5年生の子どもたちに向けて、情報発信しました。



(3) 第4回 東日本大震災復興支援・熊本地震復興支援

チャリティコンサート&講演会(7月9日)

卒業生と在校生が一体となって、東北や九州に想いを寄せて、チャリティイベントを開催しました。ロビーでは、仮設住宅の方々で作られた小物の販売やパネル展示、「あなたの想い」を1枚の紙にのせて、東北・熊本へ運びます！」プロジェクトを展開し、メッセージを集めました。また、岩手県陸前高田市の戸羽太市長をお招きし「東日本大震災からの教訓」と題し、お話をしていただきました。第1回目のコンサートを立ち上げた先輩たちも駆けつけてくれました。

当日は会場にて、東北と熊本への募金活動も行いました。
<募金額> 東北へ 128,800円 熊本へ 128,800円



経済学部 国際経済学科 鈴木仁那

様々な学部学年の方とイベントの運営をしたり、OBの方と一緒にステージで合唱させていただいたり、陸前高田市長の講演では貴重なお話を伺うことができました。今回のチャリティイベントは、人の繋がりを強く感じるものになりました。被災地の支援をできるのは勿論のこと、ボランティアで出会った方との思い出は一生の宝物になります。どんな動機でも構いません。少しでもボランティアに興味があれば、是非行動して欲しいです。

(4)熊本地震被災者支援募金（学生ボランティア団体）

学生ボランティア団体「いと」の呼びかけで、各学生ボランティア団体が集まり、キャンパス内（クロスプラザ、学生ホール、チャペル前、生協前）で募金活動を実施しました。募金活動をしている学生ボランティア団体を見て、飛び入りで活動に参加してくれた学生や募金をしてくださった地域の方々、学生、教職員も多くおり、キャンパス内は九州各地の方々への想いであふれていました。

<募金額> 166,187円

<学生ボランティア団体>いと、学生YM(W)CA、Think&Act、のびっ子の会、ワークキャンプ部、OPEN、手話サークルとびうめ、西南FIWC九州、ノートイクサークル、西南ラブ・グリーン、学生有志



(5)西南学院創立100周年記念行事にて熊本地震被災者支援の募金活動

2016年5月14日に行われた西南学院創立100周年記念式典会場、合同同窓会総会、記念祝賀会にて、約4,200名の卒業生が集う会場で、学生ボランティアによる熊本地震被災者支援の募金活動をしました。

<募金額> 543,496円



(6)ワシタ・バプテスト大学にて熊本地震の募金活動（留学生）

ワシタ・バプテスト大学に留学していた熊本出身の学生のために、大学の学生や教職員の方々が募金し、帰国する学生に託してくださいました。実家のことを心配し多くの不安を抱えていた学生を、周囲の皆さんが励ましてくださいました。

<募金額> 51,024円

(7)熊本県福岡事務所へ募金活動で集めた募金を届けました。

熊本地震発災直後から、さまざまな形で寄せられた募金を学生代表が熊本県福岡事務所へ届けました。

<募金総額> 1,770,128円



(8)平成28年熊本地震義援金募集（街頭募金）

社会福祉法人福岡県共同募金会が主催する熊本地震で被災された方々を支援するための街頭募金に、学生たちが参加しました。福岡に一時避難をしていた熊本大学の学生たちと一緒に活動し、活動後、熊本の学生たちへ本学学生よりエールを送りました。



(9) WITH THE KYUSHU プロジェクト

熊本地震で避難所の物資が不足しているとの状況を受け、福岡市が救援物資を集めて、随時、被災地へ搬送することが決まりました。旧大名小学校に2016年4月17日(日)13時から集められた救援物資は、次々に福岡市の消防ヘリで熊本に運ばれました。

救援物資の仕分け作業には、授業の空き時間を利用して参加し、6日間で、延べ274名の学生たちがボランティア活動をしました。



(10) 災害ボランティア講座

共働プラットフォームのボランティアコーディネーター杉浦健氏をお招きし、「ボランティアとは何か?」や「災害ボランティアの活動とは?」について、お話をいただきました。「ボランティア活動の大小はあっても、活動の上下はない。すべてのボランティア活動は縦ではなく横に繋がっている。一人ひとりのアクションには必ず一つひとつの“出番”があって、自分ならこんなことができるという出番を見つけ、得意なことをぜひのばしてほしい。また、繋いだ縁をつむぐのが学生。災害ボランティア等で訪れた場所に年末年始や卒業後、顔見せに帰る“里帰り”をし、被災者(被災地)と芽生えた縁を里帰りボランティアとして大事につむいでほしい。」と参加した学生たちへ熱いメッセージをいただきました。



(11) 阿蘇郡西原村子ども笑顔プロジェクト

～夏休み離島わくわく体験ツアー IN 五島～(JTB九州)

五島市が熊本地震で被災した西原村の子どもたちを、2泊3日で五島へ招待しました。その旅行の過程で福岡を経由する際、フェリーが出発するまでの時間、子どもたちと一緒に学生ボランティアが、福岡市動植物園やヤフオクドームなどを訪れて交流しました。



(12) SUMMER CAMP for Kumamoto Kids 2016

熊本地震で被災された私立中学の1年生から3年生の生徒20名を西南学院大学に招待し、本学の教育の特徴である英語教育を通して、英語を話す楽しみを経験してもらおうと、1泊2日のサマーキャンプを実施しました。このキャンプには、8月中旬にアメリカ、カナダ、フランス、イタリアなど13か国から来日したばかりの留学生31名と大学生のボランティア8名が、中学生とともに2日間を過ごしました。



《中学生の感想》

- ・これまで留学生と話したことがなかったが、自分の英語が留学生に伝わったときは、うれしかった!
- ・英語をもっと勉強しようと思う。また参加したい!
- ・夢を文章にすることで、将来の目標が明確になった!



(13)大学祭にて模擬店出店（11月17日～20日）

東日本復興支援インターンでお世話になった宮城県から、生わかめロール(南三陸)、山元町のりんごを使ったアップルスティック、牡鹿半島の方が作られた小物、熊本県からは、黒糖ドーナツ棒、ネギ味噌ラー油(西原村たんぼぼハウス)を取り寄せ販売しました。模擬店では、パネル展示も行い、東北と熊本の現状を発信しました。大学祭には、地域の方々や学生たちの家族や友人、東日本大震災ボランティアや復興支援インターン、熊本地震ボランティアでお世話になった方々も足を運んでくださいました。



(14)被災地にクリスマスカードを贈ろう（東北へ想いを届ける！）

毎年、手書きのメッセージを添えて東北の仮設住宅の方々へクリスマスカードを送ります。今回は、「被災地の子どもたちに、クリスマスカードを届けよう！プロジェクト」にも参加し、東北の小学校の児童たちにも、届けられました。



(15) (交流会) 漁師の言葉から学ぶ

～みんなで語ろう3.11のこと、未来のこと～

東日本大震災時、宮城県石巻市東浜地区の災害対策本部長として、復興に尽力されていた漁師の豊島富美志さんをお迎えして、交流会を開催しました。「毎年12月になると西南学院大学から手書きのメッセージが添えられたクリスマスカードをいただき、言葉に励まされ、力をもらっています。学生のみなさんには、ボランティア(被災地支援)のためだけに自分の時間を使い過ぎることなく、大学生活や家族、友人との時間をも大切にしてほしいと願っています。そんな日常の中で、ほんの少しでも時間がある時に浜に来ていただき、お話しができるだけでとても嬉しいものです。ご支援してくださった方々、今もおご支援して下さる方々に心より感謝しています。」と語っていただきました。

神学研究科 神学専攻博士前期課程 元川信治

震災ボランティアチーム、ラファイヤーの一人として参加した宮城で、豊島さんとお会いしました。交流会ではSIECと共に、迎える側へと立場が変わりました。そこから見えてきたのは、ボランティアの働き自体が、多くのボランティアによって支えられていることへの気づきでした。世界が何からなっていて、何を目指していけるのか、ボランティアは多くの示唆を与えてくれます。



④ 海外ボランティア

海外ボランティア・ワークキャンプ

2003年度から、毎年フィリピンでワークキャンプを実施しています。日本とフィリピンの国際飢餓対策機構と連携し、同じアジアの中で違う「アジア」を体験し、地元の人たちとの交流や貧困地域で活動を行い、ボランティアマインドを育成することを目的に活動しています。

1. 活動期間：2月～3月の11日間
2. 活動場所：フィリピンマニラ郊外
3. 活動内容：貧困地域で活動、地元の人たちとの交流
小学校訪問、家屋修理や校舎の建築などのワーク
4. 募集方法：ポータルにて案内（説明会有）
5. 募集人数：約15名



経済学部 国際経済学科 吉武勇建

フィリピンで過ごした日々は驚きと感謝の連続でした。生活に必要な設備などは恵まれていない部分もありましたが、それを越える心の豊かさや人々の笑顔が溢れていました。自分たちの生活がいかに恵まれているかということ、自分たちが持っていないかけがえの無いものをフィリピンの人々は持っている。その事に気付かされました。このフィリピンでの日々は学ぶことも多く、今の自分の原点であり、かけがえの無い宝物となりました。

国際文化学部 国際文化学科 松永莉彩子

フィリピンで出会ったのは、家族愛であり、人を思う心だったり、優しさだったり、フィリピンに行かなくても、身の回りにあふれていて、感じ取れることかもしれません。けれど私は、日本にいたままでは、気付けずにいた部分が多くありました。帰国してすぐ、私は、家族に「ありがとう」を伝えました。ボランティアという経験を通して、たくさんの方のことを学ばせてもらいました。この経験はわたしの宝物です。

人間科学部 心理学科 磨井美里

たくさんの方々の温かさにも包まれた11日間でした。フィリピンに対するイメージは人それぞれだと思いますが、他人からの情報だけでなく、自分の目で見ることに触れることがどれほど大切かということを感じ知らされました。そしてただ感じるだけでなく、それをきちんと言葉にして伝えて共有すること。人が互いに思いやること、人の優しさや温かさ、恵まれた環境にいる私たちが普段忘れかけてしまっている感謝の気持ちや感情をたくさん取り戻せた気がします。

商学部 商学科 坂本亮大

ボランティアとは一体何なのか。その答えを見つけることができたのがこのワークキャンプでした。100人にボランティアとは何ですかと聞いた時、100通りの答えが返ってくると思います。私の中でボランティアとはリレーです。現地で起きている状況を現地に直接行き活動した人たちがそれを知らない人たちに伝え活動を促すこと。つまり、繰り返すことです。それがボランティアと私は考えます。活動中の様々な出会い、発見、苦難、その全てがかけがえのない経験になりました。是非このバトンを受け取り自分の中でのボランティアの答えを見つけてください。

海外ボランティア支援

西南学院大学のグローバル化を進めるための方策の1つとして、海外ボランティアに参加する学生を支援するために、補助金を支給しました。2016年度の対象プログラムは、「NGO 合同説明会 in 西南学院大学」に参加した団体主催のボランティア及びスタディツアーでした。この制度を利用して、インド、カンボジア、中国、フィリピンなどで、学生たちが活動しました。

①Gilutungan GR

派遣国：フィリピン

参加団体：NPO 法人NICE

活動期間：2016年8月30日～9月8日

内容：植林などの農業支援や子どもたちとの交流



文学部 外国語学科 英語専攻 金子千遥

昨年の夏、フィリピンのギルトンガン島という所で活動しました。活動して行く中で1番衝撃だった事は現地の人との価値観の違いです。なぜ貧困層がなくなるのか、その原因の1つを直接感じる事ができたと思います。また、慣れない生活で団体行動をした事も良い経験となり、日本の生活の有難みを感じました。自分で経験するのは全く衝撃が違います。せっかくの長期休み、ぜひ参加してみてください！

②マザーテレサ施設ボランティア

派遣国：インド

参加団体：ボランティアプラットフォーム

活動期間：2016年9月1日～9月8日

内容：着替えや食事介助など



文学部 外国語学科 フランス語専攻 長野華也

私は、夏休みを利用してインドのコルカタにあるマザーテレサの施設に行きました。世界中から集まったボランティアの人達と一緒に、英語の通じないシスターから子供へのマッサージの仕方を教わったり、寝たきりの子供にご飯を食べさせたりして、障がいのある孤児と接してみても、言葉が通じなくても笑顔で話しかける大切さ、出来るか不安な事でもやってみる事の大切さを学びました。

③中国キャンプ

派遣国：中国

参加団体：FIWC 九州

活動期間：2016年8月13日～9月2日

内容：ハンセン病快復者との交流など



文学部 外国語学科 英語専攻 武田まり乃

FIWC九州の中国キャンプに3回参加し、かつて隔離された場所であったハンセン病快復村を訪れました。活動の中心は、差別を受けた過去のあるハンセン病快復者との交流です。目に見えて大きな成果の現れる活動ではなく、「自分に何ができるのだろう」と考えることもありました。しかし、快復者は私たちに助けを求めているのではないと気付いてからは、ただ傍にいる時間を大切にできるようになり、楽しさや嬉しさが不安を上回るようになりました。

⑤ 学生サポーター

福岡市教育委員会と連携し、福岡市内の学校・幼稚園の要望に応じて、各学校・園で活動するというプログラムで、活動する学生を“学生サポーター”と呼んでいます。学生サポーターは、活動先の各学校・園において主に、授業や学校行事の補助、クラブ活動の支援などのサポートをしています。社会人としての経験に加え、教育現場で児童生徒と直接接することで教育活動を体験できる良い機会となっています。教職を履修していない学生も参加できます。

※詳細はポータルや、説明会で確認してください。

4月下旬に説明会を開催する予定です。年間を通して、相談に応じています。



人間科学部 児童教育学科 宮崎郁夫

(小学校、特別支援学校で活動)

私は、学生サポーターとして特別支援学校と小学校で活動しました。学生サポーターに参加し、様々な子どもたちとの交流や実際に学校へ赴くことで、教育現場の現状や子どもたちの姿が見えてきます。将来、教師を目指している身として、この経験は非常に価値があるものとして実感しております。私が、この学生サポーターの一番良いと思うことは、派遣先を選ぶことができることです。このおかげで自分のニーズや目的に合わせて現場を選ぶことができます。また、活動の頻度や時間帯、内容も、派遣先と相談して決められることも、バイトや学業の両立にとっても役立っていると感じます。この経験は絶対あなたを裏切りません。興味がある方は是非やってみてはいかがでしょうか。

国際文化学部 国際文化学科 井上明美

(小学校で活動)

私は週に1回朝から夕方まで小学校で学級のお世話や学習のお手伝いをさせていただいています。昼休みには校庭で児童たちと遊び、放課後には掲示物作成などを行っています。子供たちはみんな元気で、いつも笑顔になります。私は教職志望だったので、生活指導の勉強をしたいと思い参加しましたが、子供たちと触れ合い、学校現場で先生の仕事を間近で拝見させていただくことは教職志望の方でなくても、貴重な経験になると思います。

<学生サポーター交流会>

今回、初の試みとして、学生サポーター経験者と学生サポーターに興味のある学生が語り合う交流会を開催しました。経験談が紹介され、活動が具体的にイメージでき、活動したことのない学生たちは、次の1歩へと励まされ、活動へとつながりました。



文学部 外国語学科 フランス語専攻 山下奈々

学生サポーター交流会に参加して、教職課程を履修していない私でも、小学校や中学校で、子どもたちと関わったり、先生のお手伝いをしたりすることができるということを知り、ますます学生サポーターになりたいという気持ちが強くなりました。また、様々な方と和やかな雰囲気でお話することができました。今年度は履修等の都合で参加できませんでしたが、来年度はぜひ学生サポーターの活動に参加したいと思います!!

経済学部 経済学科 伊藤希実

学生サポーター経験者と、活動に興味のある学生による「交流会」が、昨年初めて開催されました。私は2年間、小学校で学生サポーターの活動をさせていただいたので、「子どもたちが毎回会うのを楽しみにしてくれていた」などの経験談をお話しました。交流会には教育委員会の方も出席されており、経験者・未経験者双方からの質問や不安に対して的確なアドバイスをしていただきました。子どもたちの喜びを、自分の喜びとして感じられる方は、まずは説明会や交流会に足を運んでみてください。

① ボランティアミーティング(あずみん)

「ボランティアミーティング～

「社会に“イイ”こと」を、
今日から始めたい人に
～」を開催しました。

「NPOについて深く
知りたい。」「どんな人た
ちが活動しているの?」など、普段なかなか
知る機会のない学生たちが参加し、NPO について
の基礎講座、実際に活動をされている
4つの団体による活動報告、交流タイムを通
してNPO への理解を深めました。

参加団体

(特活)食育推進ネットワーク福岡
(一社)PLAY FUKUOKA

(特活)タウンモービルネットワーク北九州
NPO 法人ホーキーズ (発表順)



法学部 法律学科 大庭千晶

私は、ボランティア活動に参加して、人との
出会いや繋がりの大切さと、相手の気持ちに
寄り添うことの大切さを改めて強く実感しま
した。活動をするなかで、自分の新たな一面を
発見でき、興味や関心の幅を広げることもで
きました。活動後に、家族や友人に話をする
と、興味を持ってもらえることが多く、その輪
が広がっていくことにもやりがいを感じまし
た。皆さんも是非、自分に出来る形で参加して
みてください！

② ノートテイク&手話講座

NPO法人MCPの
方を講師にお招きし、
ノートテイク&手話6
時間講座を開催しまし
た。「ノートテイク」と
は、聴覚障がいを持つ学生の耳の代わりとな
り、授業などその場の「音」を「文字」にして
視覚的に伝えるという支援の方法で、毎年講
座を開催しています。今回は、2時間講座を3
回に分けて実施しました。

1回目：障害理解 2回目：手話 3回目：ノートテイク

理論と実践をゲームを交えて、参加者同士がお互いに交流しながら、障がいを持つ人と
持たない人が「相互に繋がる」とはどういうことかを楽しく学びました。

また、3日間とも当事者の高校生が参加してくれて、習いたての手話やノートテイクを
用いながら、交流することができました。



人間科学部 社会福祉学科 中嶋詩織

NPO 法人の方の協力のもと、ノートテイク
と手話をゲームを通して楽しく学ぶことが
できる。ノートテイク・手話講座を開催しまし
た。実際に音のない世界を体験したり、唇の動
きだけで言葉を読み取ったりすることで、当
事者の立場から、支援者にどのような支援を
求めているのかを学ぶことができました。ま
た、自分自身、聞いて・まとめて・発信する力
を身につけることができました。

③ 手話コンサート

震災や災害を忘れず
に語り継ぐと同時に、
希望を持って未来へ歩
んでいくことを目指し
て開催された、日本青
年会議所主催の「未来へつなぐプロジェク
ト～音楽のちから～」コンサートにおいて、
アーティストの歌に合わせて、手話で通訳し
ました。



人間科学部 社会福祉学科 上津原達也

とびうめは昨年5月15日、大牟田で開催さ
れた「未来へつなぐプロジェクト～音楽のち
から～」に参加し、テーマ曲「未来へつな
ぐメッセージ」の合唱の際、壇上で歌詞の手話
をさせていただきました。東日本大震災、そし
てこの大会の約1ヶ月前に起きた熊本地震の復
興を願い練習を重ねる中で、ただ手を動かす
だけではなく、心の底からメッセージを届け
ようとする気持ちこそが、手話だけに限らず
日常の中でも大切であると学びました。

④ 「世界の子どもたちの笑顔のために」 写真展&トークセッション(安田菜津紀氏)

「世界の子どもたちの笑顔のために」と題して、TBS 日曜日朝のサンデーモーニングの
コメンテーターとしても活躍されている安田菜津紀さんをお迎えし、写真展&トークセッ
ションを開催しました。一枚の写真に込められたメッセージや背景、などについてお話し
していただきました。

写真展

フォトジャーナリストの安田菜津紀さんをはじめ、NGO代表を兼ねる本学職員や海外
でのボランティア活動経験が豊富な本学学生たちが撮影した世界中の子どもたちの写真
を展示し、貧困、災害、エイズなどで苦しみながらも明るく強く生きる子どもたちの笑顔あ
ふれる一瞬一瞬を紹介しました。写真からは撮影者のみなさんの子どもたちに対する深い
愛情が感じられました。



トークセッション

基調講演では、安田菜津紀さんがフォトグ
ラファーになられたきっかけや、写真に込め
られた思い、フォトジャーナリストとして伝
えたいこと、などについて話をされ、その後
のトークセッションでは、写真展の写真を撮
影した職員や学生が加わり、なぜ海外に行く
のか、行く前と帰国後で自分がどう変わった
か、そして「世界の子どもたちの笑顔のため
に」私たちに何ができるか、会場の全員で考えました。

経済学部 経済学科 築地雄太

私はこのイベントに参加して、はじめの一歩
は知ることだと思いました。皆さんの中には
恵まれない子どもたちのために海外でボラン
ティアをしてみたいと考えている人もいるで
しょう。しかし、海外での活動はハードルが高
いと感じている人も多いと思います。ハードル
が高いと感じている方は海外での経験談を聴
くことから始めてみてはいかがでしょうか。



⑤ 海外事情講演会((株)マイチケット代表山田和生氏)

講演会「夏の計画を決めるのは、この話を聞いてから！～あなたにピッタリのスタディツアーの選び方＆安全対策豆知識～」では、ツアーを選ぶポイントや海外旅行保険の選び方、感染症の基礎知識、海外に持参したら役立つ薬情報など、具体的な事例をもとに、分かりやすく話してくださいました。



人間科学部 社会福祉学科 山本将博

当初からボランティアに興味があった私は、この講習会でボランティアについて学びました。善意だけではやってはいけないということ。人助けをしたいからするという考え方では成り立たないということ。ボランティアをする側が病気や怪我をして現地の方への支援を妨げないために、最低限、費用確保、現地の情報収集、諸病の予防の仕方など準備をしっかりとしないといけないということ。この学びは、私自身のボランティアへの考え方を根本的に変えるものでした。

⑥ NGO合同説明会

団体毎にブースを設置し、団体の活動紹介、スタディツアーやワークキャンプの紹介、NGO入門講座など、福岡のNGO活動について、一度に話を聞くことのできる貴重な機会となりました。学生の体験談なども聞くことができ、実際に学生たちが、海外ボランティアに一歩踏み出して活動しました。



<参加団体>

- (1) 特定非営利活動法人エスペランサ
- (2) 一般財団法人カンボジア地雷撤去キャンペーン
- (3) くるんて～ぶの会
- (4) 認定NPO法人ソルト・パヤタス
- (5) NPO 法人日本国際ワークキャンプセンター (NICE)
- (6) フレンズ国際ワークキャンプ九州 (F I WC九州)
- (7) ACE 福岡グループ
- (8) 特定非営利活動法人 九州海外協力協会
- (9) Save the African Children
- (10) 認定NPO法人地球市民の会
- (11) 特定非営利活動法人バングラデシュと手をつなぐ会
- (12) 国際教育交換協議会 (C I E E)、
- (13) ボランティアプラットフォーム
- (14) (特活) NGO福岡ネットワーク (FUNN)



文学部 外国語学科 英語専攻 池田侑海

私は以前より国際協力や国際交流に興味を持っていましたが、正直何から始めていいか全く分からない状態でした。NGO 合同説明会では、実際にNGOで活動している学生の話聞いて、自ら踏み出す一歩が大切であるということ、また私たち学生でもできることはたくさんあると感じました。どの団体の活動も魅力的で、さらに刺激を受け、これからは思うだけでなく実際に行動に移して行きたいと強く思いました。しっかりとしないといけないということ。この学びは、私自身のボランティアへの考え方を根本的に変えるものでした。

⑦ 福岡森の学校 ネイチャーキッズスクール

キャンプや自然遊びなどの自然体験を通して子どもたちの思いやりの心、正義感など、たくましく育てていくためのお手伝いを学生スタッフが行っています。



学生スタッフは、5～6人の担当の子どもたちを見るスタッフやプログラムの進行をサポートするスタッフなど様々です。またアウトドア初心者が多く、初めてでも大丈夫です。活動は月に1～2回ほどです。子どもたちの笑顔、成長をともに支えていきませんか？

人間科学部 児童教育学科 馬場康輔

私は福岡森の学校というNPO法人でボランティアをさせて頂きました。一年間を通して子どもたちと一緒にキャンプや登山をし、たくさんの子と関わることができました。ボランティアを通して、子どもたちを預かっているという責任感、子どもたちと活動する楽しさや喜び、なんといつても素敵な子どもたちの笑顔に出会えたことが最大の財産です。子どもたちとともに自分自身も成長することができました。子どもたちと一緒に充実した大学生生活を送ってみてはいかがでしょうか。

⑧ プレイワーカー

最近、子どもが外で元気に遊べるのが当たり前でなくなっている現状があります。この問題を防ぐために、福岡市では放課後に「わいわい広場」という遊び場作りの事業を展開しており、子どもがランドセルを学校に置いたまま、校庭で自由に遊べます。この現場に定期的に訪れ、子どもと遊んであげるだけでなく、子ども自身の遊び心を引き出す役割を担うのが、「学生プレイワーカー」です。また、月一回の月例会では、「子どもとどう向き合ったらいいか？」「遊びの利点は？」など、様々な年齢の方と話し合い、「子ども」に関する学びを深めています。



人間科学部 児童教育学科 山口智笑

活動の中で多くの子と出会い、西南大は近くに小学校がある恵まれた環境です。そのおかげで参加しやすく、しかも子どもと「友達」として遊ぶ、とても楽しい活動です。また月例会では、勉強になることに加え、人脈も広がりました。今の子ども達の現状を目のあたりにするなど、座学だけでは学べない体験がたくさん出来ました。

⑨ 四箇田公民館

訪日外国人の数が年々増加し、福岡県でもさまざまな国際会議やスポーツの国際大会などが開催されるようになりました。そこで四箇田公民館の初の試みとして、地域の子もたちが英語に親しみ、国際感覚を身につけるきっかけとなるイベントが発案され、本学学生と一緒に企画・実施をしました。



文学部 外国語学科 英語専攻 井手紗雪

最近、英語を話すことを恥ずかしいと感じる人がいます。そこで私たちは、小学生にまずは英語を楽しんでもらおう、という目的で今回の活動を行いました。自分達で全て計画をし、歌やゲームをしました。まだ英語を始めたばかりの小学生、その子たちの楽しそうな顔をたくさん見ることができました。このような活動は私たちができること！さらに後輩たちに繋げていきたい。

⑦ 学内ボランティア

学内各部署合同募集説明会（2016 年度実績）

大学内の各部署では、学生の皆さんに協力していただき、一緒に作り上げるさまざまなイベントや業務があります。各部署の募集するボランティアの合同説明会を実施しました。学内のボランティアでも、たくさんの学生たちが活動しています。

【参加部署】

入 試 課：オープンキャンパスなど

広 報 課：Spirit（広報誌）特集意見交換など

エクステンション課：西南子どもプラザ スタッフ補助

国際センター：留学生サポーター、ウェルカムスタッフ

日本語学習チューター

ボランティアセンター：ボランティア活動全般



【内 容】

各部署のボランティア募集内容、申込み時期及び方法、ボランティア登録など



アンケートの感想から抜粋

- ・合同説明会ということで、一度にすべての部署のボランティア情報を聞くことができたので、とても効率よく良かったと思います。
- ・説明会に参加して、やりたい活動が見つかったので、とても良かったです！
- ・今まで知らなかったボランティアもたくさん紹介されていて大変参考になりました！
- ・これから積極的に、学内のボランティアに参加しようと思います！
- ・留学生をサポートするボランティアにチャレンジして、留学生が日本で楽しい時間を過ごせるようサポートしながら、自分自身のコミュニケーション力（英語）もスキルアップさせたい！
- ・どのボランティアも楽しそうなのでやってみたいと思った！やりたいことが沢山見つけたので、これからの学生生活が楽しみになった！
- ・一度にいろいろなボランティアを知ることができ、これまで関心のなかった分野についても知る機会となるため、とても良い説明会だと思った！

① 入試課



西南オープンキャンパスボランティア

毎年、2日間で約6,000人が来場し、西南学院大学の魅力を伝える重要なイベントです！運営スタッフの活動は、学生相談員や在学生講演会、キャンパスツアー、大学周辺バスツアーなどがあります。2日間で延べ150名もの学生が活動しています。

場所：中央キャンパス 2号館 2階
TEL：092-823-3366
Mail：adm-hp@seinan-gu.ac.jp

② 国際センター



留学生サポートボランティア

留学生の日本語の授業のお手伝いや交流行事への参加、短期間のホームステイ受け入れなど、留学生をサポートする学生を募集しています。留学生サポーターや日本語学習チューターなどがあります。

場所：中央キャンパス 2号館 4階
TEL：092-823-3346
Mail：intleduc@seinan-gu.ac.jp

③ 広報課



広報誌「SEINAN Spirit」ボランティア

在学生を対象とした広報誌を年4回発行しています。広報誌に関する学生のみさんの視点や意見を取り入れるために、企画会議、意見交換会を行っています。

場所：東キャンパス 本館 2階
TEL：092-823-3248
Mail：koho@seinan-gu.ac.jp

④ 西南子どもプラザ

本学の学生で、ボランティアや西南子どもプラザに興味のある方であれば、経験、専門は問いません。クラブ・サークル単位での参加も歓迎します。

対 象：本学学生

活動時間：10：00～17：00 の都合の良い時間（日曜除く）

場 所：西南子どもプラザ

活動内容：来館した親子と遊ぶ

おもちゃの制作や消毒

行事の手伝い

外国人親子との会話の手助け 等

申込み方法：問合せ先へ連絡し、子どもプラザボランティアに登録する。（随時受付）

問合せ先：西南子どもプラザ 092-846-9207



⑤ 聖書植物園

大学では、聖書に登場する植物を集めた「聖書植物園」を管理運営しています。その植物園のメンテナンスに必要な草取り等の活動を行っています。

活 動 日：毎月 第3土曜日 9：00～12：00

持 ち 物：軍手、帽子、タオル

参加方法：9：00 5号館前現地集合（小雨決行）
（予約・申込なし。当日参加O.Kです!）

問合せ先：総 務 課 092-823-3201

夜間・休日 092-841-1316



⑥ 防犯ボランティア隊 Green Angel

「地域の安全は地域でまもる。大学の安全は大学でまもる」をモットーに、防犯パトロールや小学生の防犯教室を開催しています。福岡県アンピシャス運動にも参加しています。

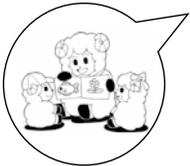
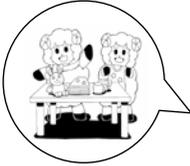
活 動 日：毎月 第1・3水曜日 15：10～

問合せ先：学生課 092-823-3837



⑧ 学外ボランティア

ボラセンには、学外の様々な団体からボランティアの依頼やイベント、スタディツアーなどの案内があります。例えば、イベントスタッフ、着ぐるみのボランティア、清掃、子ども会イベント補助、学習サポーター、福祉施設でのボランティアなど、さまざまな分野の情報がたくさんあります。まずは、ボラセンに来て探してみてください。



下の表は一例ですが、ボランティア活動にはたくさんの種類があります♪ 活動始めるヒントにしてくださいね♪



対象	種類	内容
大人 子ども	自然環境	海浜美化活動（ごみ集め）、街や公園の清掃活動、植樹 など
	国際交流 国際協力	ワークキャンプ、スタディツアー、難民支援（洋服回収）、留学生支援、硬貨の仕分け（国別）、日本語指導、イベントのお手伝い など
高齢者	災害支援 防災	被災地支援、がれき・土砂の撤去、家屋の片付け、復興支援イベントの企画・実施、避難訓練の参加、募金活動 など
障がい者	イベント	着ぐるみ、受付、設営・片づけ、手拍子やかけ声、レクリエーションの補助、出し物、遊園地の付き添い、ポスター作成、介護補助 など
外国人	まちづくり	村おこし・地域おこしの活動、交流の場づくり、社会参加の協力（補助）、イベントの企画・運営 など
動物 植物	教育	学習指導の補助、通訳、ノートテイク、ワークショップ開催、遊び相手、レクリエーションの指導、 など
	動物	小屋の清掃、お散歩、お世話、被災動物の保護活動 など

ボランティア活動保険

ボランティア活動中や行き帰りにケガをした時、また活動先の物を壊したり、人にケガをさせた場合に補償をするのが「ボランティア活動保険」です。万が一の備えや安心して活動が出来るよう、活動を始める前に加入されることをお勧めします。

※ボランティア保険は、自治体によってこととなりますが、主に300円前後の掛け金で、万が一の事故を補償してくれます。（加入日の翌日から当該年度の3月31日まで有効）

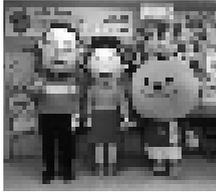
加入申込の手続き

福岡市・各区の社会福祉協議会



①着ぐるみボランティア

社会福祉協議会を通して届くさまざまなボランティアのうち、着ぐるみボランティアはいつも人気です。秋の早良区健康まつりでは、サザエさん、マスオさん、福岡市のキャラクターよかろーものの着ぐるみを着て、イベントを盛り上げました。



商学部 経営学科 飯笹可奈子

もともと、子供が好きだったこともありサザエさんの着ぐるみを着て、イベントで来場者とふれあうボランティアをしました。国民的人気アニメということで子どもからお年寄りの方まで人気があり、自分の小さい行動でも人を笑顔に出来ること、同時にいかに地域の人に自分が支えられているかということも目に見えて分かり、今後の自分の行動を考えるいい機会になりました。

②室見小学校

室見小学校5年生の土曜参観時の道徳学習クラスで、ゲストティーチャーとして招かれ、子どもたちに東日本大震災ボランティアについて、活動の様子や、被災地の現在、その時の思いなどを話しました。当時、4～5歳だった子どもたちは、震災のことを覚えておらず、質問もたくさん発言し、参観に来られていた保護者の方も、熱心に聞いてくださいました。



商学部 経営学科 権藤翔平

僕は東日本大震災のボランティア活動に8月の夏休み期間中を利用して参加しました。その体験を通じて学んだことや、九州にいる皆さんにも伝えなければならないと思ったことを、西南大のチャペルや福岡市内のパブテスト教会、室見小学校の道徳の授業で発表してきました。とても緊張しますが、計り知れない達成感を得ることができます。是非皆さんもボランティアに参加してみてください！

③介助ボランティア

重度肢体障がい者レクリエーションの一環として、日帰りバス旅行が開催され、介助者の方と参加し、障がい者のみなさんとふれあい、一緒に果物狩りやレクリエーション施設の見学を楽しみました。梨やりんごなどのお土産をもらって帰りました。



人間科学部 児童教育学科 宮崎彩加

このボランティアでは、障がい者の方のバスの乗り降りのサポートやお弁当の配付などを行いました。その中で、私は車いすを利用している女性の方に声をかけられ、店内と一緒にまわって買い物のお手伝いをできたことがとても嬉しかったです。この活動を通して、多くの障がい者の方々が不便に思うことを私たちから積極的に寄り添っていくことが大事だと感じました。

④カタリバ

福岡カタリバとは福岡県内の高校を大学生が訪問し、学校生活や進路について悩みを抱えている高校生に親でもなく友達でもない大学生というナナメの立場から、高校生の心に火を灯し、高校生の意欲を引き出すことを目指したキャリア学習プログラムです。



経済学部 経済学科 久保友輝

高校生と話している中で一人ひとり夢が違い、また悩みが違うということに改めて感じます。目の前の相手を深く理解し、寄り添うことがその子のためになればと思って全力で向き合います。活動を通じ、自分自身とも向き合うことができ、カタリバをやったよかったと心から思えます。大学生でない経験することができない活動です。人との出会いを求めている方、大歓迎です！ぜひ参加してみてください！

⑤西新地域との交流

大学のある福岡市早良区西新の西新商店街の皆さんと大学生がお互いの場を行き来し、西新をより住みよい街にするための校区防犯パトロールや、街を盛り上げるためのイベントを企画・運営しています。



人間科学部 社会福祉学科 木寺広奈

西南学院大学は、西新のまちの中心に位置しているのに、大学とまちの繋がりが薄いなと感じていました。もっと西新のことを知りたい！と思って参加したのがきっかけです。実際に参加してみると、西新という町の特徴、人の暖かさ、人の繋がりの大切さを実感しました。ぜひ皆さんも地域のひとつの力になりませんか？

⑥有住小学校

有住小学校内の留守家庭子ども会（運営委員会）に補助指導員として登録し、午前中や放課後など、都合のつく時間に子ども会の活動に参加、子どもたちの育成・支援にあたります。小学生の放課後支援を行うプログラムです。



人間科学部 児童教育学科 馬場あゆみ

補助指導員として放課後の子どもたちを預かる有償ボランティアです。主に、子どもたちのサポートですが、一緒に遊んだり勉強を教えることもあります。先生ではありませんが、時に友達のように親のように慕ってくれます。身近でたくさん子どもたちと触れ合え、また他の先生から様々な話を聞けるのがとても魅力だと思います。ボランティアではありますが、子どもたち、他の先生から学ぶことがたくさんあり、毎日新しい発見ばかりです。ボランティアは自分を成長させてくれるものだと思うので、興味のあることは積極的に参加した方がいいと思います！

⑥自閉症バスハイク

年長自閉症児者の方々のバスハイクにボランティアとして参加し、1日みなさんに寄り添い、介助者や保護者の方々と一緒に過ごすことで、自閉症への理解を深めました。



人間科学研究科 臨床心理学専攻修士課程
佐藤美保

「自閉症」と一言で言っても、人によって性格が異なるように、さまざまな性格の方がいました。自分が教科書で読み、想像していた自閉症の方とは異なり、驚きました。今回の経験を通して、実際に人と触れ合うことで学ぶこともたくさんあると実感しました。バスハイクの内容も充実しており、とても楽しい1日でした。たくさん学ぶことができるので、ぜひこのボランティアに参加してほしいです。

③室見公民館

小学生親子を対象としたレクリエーション事業が室見公民館で開催されました。「公民館で謎をとけ!」と題されたゲーム感覚のイベントは、子どもたちも喜んで参加しました。学生ボランティアは、イベント準備から関わり、当日は地域のみなさんとたくさん交流できました。



文学部 外国語学科 英語専攻 江口雅孝

室見公民館で行われた小学生親子対象のイベントに参加しました。普段接することの少ない小学生なので、初めは緊張していましたが、笑顔あふれる姿にたくさん元気をもらい、僕も笑顔になりました。参加していた女の子から「お兄ちゃん、今日はありがとう」と言われた時は参加して良かったと心から思いました。ボランティア活動は、教室の中では絶対できない貴重な経験ができますよ!

⑦木の葉祭

障がいのある人たちが地域のみなさんと交流し、地域に溶け込むと同時に地域の活性化にもつながる、地域の多くの団体・機関が関わる大規模なイベントで、運営や付き添いボランティアに従事しました。



人間科学部 社会福祉学科 向なつみ

私は板谷学園の利用者さんとペアになって、一緒に出店を回りました。コミュニケーションをとる時に、なかなか上手くいかない場面もありましたが、それも含めてとても良い経験になりました。当日は、事前に担当の利用者さんの特徴を伝えていただけたので、初対面の方でも安心して1日を過ごすことができました。また、送迎バスを出してくださるので、とても参加しやすかったです!

学生グループ活動（サークル紹介）

本学には、サークルをはじめ、たくさんのボランティア団体があり、それぞれがテーマや目標を持って取り組んでいます。興味のある方は、ぜひ代表者へ連絡して、活動に参加してくださいね。

ボランティアセンターには、学生スタッフ「OPEN」が、さまざまな形で活動しています。年2回の学生スタッフ研修や、OPEN企画の説明会やイベントを実施しています。また、全国の大学ボランティアセンター学生スタッフが交流する学外の研修会にも参加できる機会があります。学生スタッフについては、ボラセンへ問い合わせてください。

①学生スタッフ研修

大学ボランティアセンターのスタッフと一緒に活動するボランティアセンター学生スタッフが、キャリア教育・就職支援の専門家によるブラッシュアップ・チームビルディング研修に参加し、個人の課題をグループで分かち合い、さらに成長するためのヒントを皆で探り、最終的にはチームとしての今後の方向性を考えました。



人間科学部 社会福祉学科

柳迫美紀

私は、社会福祉士になる勉強をする中で何か他の人とは違うことを体験できないかと思ってボランティア学生スタッフに応募し、その研修に参加しました。研修の内容は直接ボランティアに関係するわけではなかったけれど、誰かと協力して何かに取り組むことで今後の就職活動や社会生活にも必要なコミュニケーションに重要な力を学ぶことができましたと思います。

②OPEN企画 社会福祉スタディツアーin 久山療育園

久山療育重症児者医療療育センターは、西南学院と同じ日本バプテスト連盟の関連施設で、重度の知的・身体障害を重複する障がい者に対して、医療・看護・機能訓練・保育などを行っています。本学では定期的に交流し、ボランティア派遣や講習会などを開催していますが、昨年度は学生スタッフOPENが日帰りのスタディツアーを企画しました。施設見学、利用者さんとの交流、保護者の方との懇談を通して、障がいを抱える方が地域の中心に位置づけられて生きていける社会を作るにはどうすればよいか、課題は何か、私たちには何ができるか、参加者全員で考えました。



文学部 外国語学科 英語専攻

青木美樹

スタディツアーを通して、久山療育園はすごくアットホームな空間で、人と人との温かさを深く感じられました。また、人は皆互いに支え合って生きているということを再確認できました。スタッフの方のお話の中で、これからの課題もまだまだあるということを聞き、もっと人のために何かをしたい！と思うことができました。楽しく、貴重な一日でした。是非、足を運んでみてください！

③学生ボランティア団体合同説明会

学生スタッフOPENの企画で学生ボランティア団体合同説明会を実施しました。ボランティアをしたい! 何か楽しいことをしたい! ボランティアに興味がある人! どんなボランティアをしたいか悩んでいる人! たくさんの人と話してみたい人! 一人ひとりが、団体や活動とつながっていきます。



(1) OPEN

活動日：週1昼休み
活動場所：ボラセンにおたずねください。
代表者：酒井春太郎（人間科学部 心理学科）
連絡先：s18aq090@seinan-gu.ac.jp



OPENとは…(ボランティアセンターの学生スタッフです^^)

- O…Opportunity *ボランティアの紹介を通じて出会いの“機会”を! *
- P…Peace *ボランティアを通して“安らぎ”をみんなの心に! *
- E…Enjoy *西南生が“エンジョイ”できる場作りをお手伝い! *
- N…Network *人が“つながる”場所を作ります! *

今までの活動：広報活動(三角柱、ポスター作り：ノートテイク・支援学校)、OPEN企画イベント、他サークルのイベントのお手伝い、OPEN内での交流会、学外ボランティアの参加、ボランティア通信の発行

今後の活動：ボランティアの企画、運営、OPEN内での交流会、企画、発案のためのマナビバ(最近のNewsや、気になる話題をシェアする学び場)他ボランティアサークルとの交流会



こんな人集まれ!!：ボランティアを企画・運営したい人、なんでもいからボランティアしたい人、こんな活動がしたいけど手伝ってくれる人がいなくて困ってる人、他サークルとの掛け持ちOK!!

(2) のびっこの会

活動日：第2・第4土曜日の午後
活動場所：5号館
代表者：樋口真美（人間科学部 心理学科）
連絡先：s19aq093@seinan-gu.ac.jp

のびっこの会は障がいをもった子どもたちとその兄弟と一緒に遊ぶサークルです。2008年度に国際ソロプチミスト福岡-中央よりシグマソサイエティとして承認されました。毎月第2・第4土曜日のお昼から主に5号館で活動しています。現在は50名以上の学生が在籍し、15名ほどの子どもたちと交流しています。

活動では工作をしたり、お菓子を作ったり、夏にはキャンプ、冬にはクリスマス会を行ったりします。活動内容の決定や準備などは学生たちですべて行い、そのために毎週火曜日の昼休みに学生で集まって話し合いをしています。

また、活動以外にも本屋での絵本の読み聞かせやNHKでのボランティアにも参加しています。興味がある方はぜひ見学に来てください！（^o^）



(3) 学生YM(W)CA

活動日：毎週水曜日 15:30～
活動場所：1号館410教室（部会）
代表者：進藤智路（人間科学部 社会福祉学科）
連絡先：s19ap131@seinan-gu.ac.jp

私たち学生YM(W)CAは、5つの班に分かれてそれぞれのテーマに沿ったボランティアを行っています。小学生と一緒に近くの公民館で様々な体験をしたり、施設に行つて、障がい者の子どもたちと遊んだり、また、たくさんの外国の子どもたちに勉強を教えたりしています。他にも、ユニセフ募金、地域清掃など幅広いボランティアをさせていただいています。ボランティアをして、たくさんの人と関われることで、人と触れ合うことの楽しさ、そしてボランティア自体の楽しさを学ぶことを目標とし、活動しています。



(4) 西南ラブ・グリーン

活動日：不定期
活動場所：福岡ヤフオク!ドーム・福岡市役所・
西新商店街など
代表者：吉武勇建（経済学部 国際経済学科）
連絡先：s18ak016@seinan-gu.ac.jp

西南ラブ・グリーンは、e c o活動・地域と商店街でのボランティア活動を行っています。

福岡工業大学、中村学園大学、九州大学、福岡女学院大学、福岡女子大学など他学校

と200名のネットワークを構築して、市役所などの行政や、企業、地域、商店街と連携して活動しています。福岡ソフトバンクホークスとのドームでのクリーンアップ活動、海岸清掃、SUN SET LIVE という野外フェスや、大学祭でのゴミO推進活動、エコ食器・ゴミ分別ブース運営などのほか、学童保育施設の子どもたちへのボランティア活動や、地域商店街のお祭り運営・企画のボランティアも行っていきます。



(5) ワークキャンプ部

活動日：毎週水曜日
活動場所：西南会館5階
代表者：木寺 広奈（人間科学部 社会福祉学科）
連絡先：s19ap102@seinan-gu.ac.jp

ワークキャンプ部は5大学合同（九州大学、福岡女子大学、九州産業大学、中村学園大学、西南学院大学）の福祉系ボランティアサークルです。全体で約50人のメンバー

が異なる訪問先を持つ5つのグループに分かれて、月2.3回程度それぞれの施設を訪問し、子どもたちや入所者さん、高齢者の方々と交流しています。たくさんの人との出会い、日常生活では体験できないことがみなさんを待っています！私たちと一緒に大学生活を楽しみませんか？連絡をお待ちしています！！



(6) 手話サークル とびうめ

活動日：毎週水曜日 4時限目
活動場所：チャペルセンターまたはクロスプラザ
代表者：坂本 希（人間科学部 社会福祉学科）
連絡先：s19ap034@seinan-gu.ac.jp

私たちは毎週水曜日4限に集まり、ご自身もろうあ者であり、手話の講義も担当していらっしゃる福田先生に教えていただきながら、手話やろうあ者の生活・文化な

どを学んでいます。学ぶ中で難しいこともあります。毎週楽しく活動しています。NPO法人グランドワーク福岡が主催する「花のジョイントコンサート」というイベントに毎年参加し、去年は手話で「未来へつなぐメッセージ」を発表しました。また、手話検定も積極的に受験しています。難しいと思われるかもしれませんが、とても和気あいあいとした楽しく学べるサークルです！



(7) いと

活動日：週1回お昼休み
活動場所：1号館2階活動室・チャペルセンター
代表者：大部あかり（文学部 外国語学科 英語専攻）
連絡先：s19ac013@seinan-gu.ac.jp

「いと」は、大学主催の東日本大震災ボランティアに参加した学生たちが、福岡でできる活動を始めようと2013年春に設立した団体です。「いと」には、個人の活動（点）

一つ一つをつなげて線にする、という意味が込められています。東日本大震災・熊本地震の支援活動として、街頭募金活動や、チャリティーイベントの参加、活動の報告会など、活動の幅は広く、災害復興支援としても、どんどん色々なことをやっていく予定です。定期的な活動はありません。イベントごとに各々が協力できる範囲で力を合わせる、というスタンスです。「こんなことやってみたいなあ」「こんなことでできないかなあ」と思っている皆さん！「いと」はそれを皆で実現していく場所です。ぜひ一緒に活動してみませんか？



(8) 西南FIWC九州

活動日：不定期
活動場所：博多びおと一ぶ
代表者：高原義也（商学部 経営学科）
連絡先：s19ag072@seinan-gu.ac.jp

FIWC九州は、福岡を拠点にワークキャンプというボランティアの形で国際協力・国際交流を行う学生団体です。主に所属している大学は、九州大学、西南学院大学、福岡大学などになります。活動を行っている国は、日本・中国・フィリピンの3カ国で、長期休暇（春・夏）を使って現地で活動します。現地調査から資金集め、インフラ整備などの活動を、自ら企画・運営できるのが学生だけで活動しているFIWC九州の特徴です。

海外ボランティアしたいけど、、、と不安な学生の相談も受け付けますので、気軽にご連絡ください。



(9) Think&Act

活動日：毎週木曜日
活動場所：代表者にお問い合わせください
代表者：中江俊介（商学部 商学科）
連絡先：s19af119@seinan-gu.ac.jp

Think & Actは国際協力、国際交流、国内ボランティアを行う学生団体です。2013年に出来たばかりですが、活動内容がとても濃い団体です。国際協力としては、2015

年にはタイへ、2016年にはフィリピンへワークキャンプに行きました。今年も東南アジアへのワークキャンプを考えています。そして西南に来ている留学生と一緒に遊んだり、ボランティアに参加したりして国際交流をしています。国内ボランティアでは、「地雷撤去支援のための書き損じハガキ回収プログラム」などで集まったハガキやテレホンカード、切手などの仕分け作業のお手伝いや、九州北部豪雨で被害の大きかった黒木町へ定期的に行き、農業のお手伝いなどしています。またボーリング大会や、ハロウィン、クリスマスパーティなどのたくさんのイベントもあり、メンバー全員仲良く活動を行っています。



そ の 他

学生ボランティア団体助成

一般財団法人学生サポートセンターが主催する「学生ボランティア団体支援」に、2015年度は、ボランティア団体「Think&Act」が選ばれ表彰されました。これは、学生のボランティア活動を社会参加の第一歩と位置付け、「自由な発想と行動力」によって、社会貢献を計画・実行している学生の団体を対象に、団体組織の活性化やネットワーク作りなどを経済的に支援し、社会貢献活動を応援するというものです。

過去の受賞団体

2015年度	Think&Act
2014年度	いと
2013年度	手話サークルとびうめ
2012年度	Mits
2010年度	学生YM (W)CA
2009年度	西南ラブ・グリーン
2008年度	のびっこの会



印刷機・紙折機・裁断機の使用（無料）について

利用できる団体

・学生課で「ボランティア団体」として公式に登録し、ボラセンが許可した団体

利用の手続き

印刷機・・・(用紙については各自で用意すること)

- ・ボラセンで、学生証と引き換えに印刷機利用カードを受取り、使用する。
- ・使用申込書に団体名、使用枚数を記入し、使用する。
- ・使用后、ボラセンで印刷機利用カードを返却し、学生証を受取る。

紙折機・裁断機

使用前・使用後に、ボラセンに団体名などを告げる。

活動室の利用について

利用できる団体

- ・学生課で「ボランティア団体」として公式に登録し、ボラセンが許可した団体
- ・団体設立に向けて検討中の場合は相談すること。

利用の手続き

ボラセンで活動室の予約をする。

【利用可能な時間】

通常期間 月～金 9:00～17:00

※長期休暇中や行事などで閉室する場合があります。



社会福祉協議会(社協)

地域に暮らす高齢者や障がい者をはじめ、すべての市民が住み慣れた地域で、安心して住める福祉のまちづくりを目指しながら、地域の様々な福祉課題を解決していくために、社会福祉事業の企画・実施・ボランティア活動の推進、福祉関係者の連絡調整等を行っている団体です。また、全国、都道府県、政令指定都市、市区町村にそれぞれ設置されています。

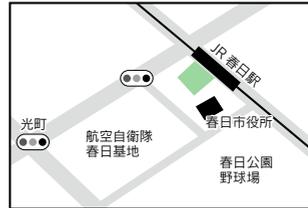
※「社会福祉協議会」は、長い名称なので、略して「社協(しゃきょう)」とも呼ばれています。



1

社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会

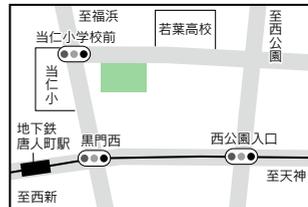
〒816-0804
福岡県春日市原町3-1-7
福岡県総合福祉センター(クローバープラザ)内
t e l . 092-584-3377
f a x . 092-584-3369・3381



2

社会福祉法人福岡市社会福祉協議会 ボランティアセンター

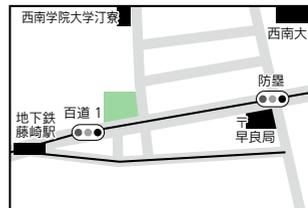
〒810-0062
福岡市中央区荒戸3丁目3-39
市民福祉プラザ2階
t e l . 092-713-0777
f a x . 092-713-0778



3

社会福祉法人福岡市早良区社会福祉協議会 早良区ボランティアセンター

〒814-0006
福岡市早良区百道1-1-1
UMIBE B.L.D 1階
t e l . 092-832-7383
f a x . 092-832-7382



2016年度ボランティアセンター活動記録（前期）

通年	災害ボランティア	海外ボランティア 国際交流	その他
4月	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡市 WITH THE KYUSHU プロジェクト (4/17～4/22) 活動場所：旧大宮小学校 ※熊本救護物資分けボランティア ・平成28年熊本地震被災者支援募金 (4/20～5/14) 活動場所：西南学院大学内【学生ボランティア団体】 ・平成28年熊本地震義援金募集のための街頭募金 (4/22) 活動場所：西鉄福岡駅周辺【社会福祉法人福岡県共同募金会】 	<ul style="list-style-type: none"> ・カンボジア運動会プロジェクト (通年) ※寄付BOX設置 ※学生ボランティア団体 ・2015年度海外ボランティア・ワークキャンプ (4/13) ※事後研修 	<ul style="list-style-type: none"> ・ネイチャーキッズスクール説明会 (4/27) 【ふくおか森の学校】 ・学内各部署ボランティア募集合同説明会 (4/26・4/27)
5月	<ul style="list-style-type: none"> ・第1回熊本地震ボランティア (5/2～5/5) ※事前研修 (4/28) 活動場所：熊本市災害ボランティアセンター本部 ・西南学院創立100周年記念行事 熊本地震被災者支援の募金活動 活動場所：100周年記念式典会場、合同同窓会総会、記念祝賀会 ・東日本大震災ボランティア (5/25) ※チャペル報告 ・熊本地震ボランティア活動報告会 & 災害ボランティア講座 (5/26) ※第1回熊本地震ボランティア報告会を含む【共働プラットフォーム】 	<ul style="list-style-type: none"> ・2015年度海外ボランティア・ワークキャンプ (5/24) ※チャペル報告 	<ul style="list-style-type: none"> ・学生サポーター前期募集説明会 (5/9) ・【福岡市教育委員会】 ・学生ボランティア団体募集説明会 (5/19)
6月	<ul style="list-style-type: none"> ・2016年度東日本大震災ボランティア募集説明会 (6/15) 	<ul style="list-style-type: none"> ・海外事情講演会 (6/6) ・【株式会社マイチケット】 ・NGO合同説明会 In 西南学院大学 (6/8) ・【(特活) NGO福岡ネットワーク (FUNN)】 	<ul style="list-style-type: none"> ・ノートテイク & 手話講座 (6/9) [MCP] ・ノートテイク & 手話講座 (6/16) [MCP] ・学生スタッフ研修 (6/18) ・【(特) ラーニングレビュー】 ・ノートテイク & 手話講座 (6/23) [MCP] ・ふくおか学生ボランティアミーティング (6/21) ・福岡市NPO・ボランティア交流センター「あすみん」 ・久山療育園ボランティア講習会の説明会 (6/30) ・【久山療育園】
7月	<ul style="list-style-type: none"> ・第4回 東日本大震災・熊本地震復興支援チャリティコンサート & 講演会 (7/9) ※創立100周年記念講演 陸前高田市長 ・熊本県福岡事務所へ義援金をお届け (7/14) ※学生ボランティア団体他 ・第2回熊本地震ボランティア (7/16) ※事前・チーム研修 (7/14) ※事後研修 (8/8) 【被災地 NGO 協働センター】 活動場所：熊本県阿蘇郡西原村 ・東日本大震災ボランティア (7/27) ※事前研修 ・福岡県高等学校保健会 (7/28) 生徒保健委員夏季研修会にて災害ボランティア活動報告 報告場所：グローバルリーナ ※学生による発表 		<ul style="list-style-type: none"> ・プレイワークー福岡説明会 (7/8) [PLAY FUKUOKA]
8月	<ul style="list-style-type: none"> ・西原村子ども笑顔プロジェクト (8/17) 活動場所：福岡市動植物園・ヤフオクドームほか ・SUMMER CAMP for Kumamoto Kids 2016 (8/21～8/22) 活動場所：西南学院大学 ・第3回熊本地震ボランティア (8/20) ※事前研修 (7/14) ※チーム研修 (8/8) ※事後研修 (9/15) 【被災地 NGO 協働センター】 活動場所：熊本県阿蘇郡西原村 ・東日本大震災ボランティア (8/24～8/28) 【日本バプテスト連盟】 活動場所：若手県 ※チーム研修 (8/18) ※引継ぎ (10/5) ・東日本大震災ボランティア (8/25～8/29) 【日本バプテスト連盟】 活動場所：宮城県 ※チーム研修 (8/23) 	<ul style="list-style-type: none"> ・海外ボランティア補助金対象プログラム 活動場所：中国【F I W C】 (8/13～9/2) ・海外ボランティア補助金対象プログラム 活動場所：カンボジア【N I C E】 (8/18～8/31) ・海外ボランティア補助金対象プログラム 活動場所：フィリピン【N I C E】 (8/29～9/9) ・海外ボランティア補助金対象プログラム 活動場所：カンボジア【ボラブラ】 (8/29～9/2) ・海外ボランティア補助金対象プログラム 活動場所：カンボジア【ボラブラ】 (8/31～9/5) 	
9月	<ul style="list-style-type: none"> ・第4回熊本地震ボランティア (9/17) ※事前研修 (8/8) ※チーム研修 (9/15) ※事後研修 (10/20) 【被災地 NGO 協働センター】 活動場所：熊本県阿蘇郡西原村 	<ul style="list-style-type: none"> ・海外ボランティア補助金対象プログラム 活動場所：インド【ボラブラ】 (9/1～9/8) ・海外ボランティア補助金対象プログラム 活動場所：カンボジア【ボラブラ】 (9/2～9/7) 	<ul style="list-style-type: none"> ・復興ボランティア学ワークショップ (9/8) ・【石巻専修大学山崎ゼミナール】 ・福岡カタリハ説明会 (9/21) ・【認定NPO法人カタリハ】

2016年度ボランティアセンター活動記録（後期）

通年	災害ボランティア	海外ボランティア 国際交流	その他	
10月	<p>弁当容器回収 (被災地支援)</p> <p>ボトルキャップ回収 (ワカチ)</p>	<p>・東日本大震災ボランティア(10/12～10/16) 【日本バティスト連盟】活動場所: 岩手県 ※引継ぎ・チーム研修(10/5)</p> <p>・東日本大震災ボランティア報告(10/16) 【平尾教会、大名クロスガーデン】※宮城</p> <p>・東日本大震災ボランティア報告(10/17) 【神学部チャペル報告】※宮城</p> <p>・東日本大震災及び熊本地震ボランティア(10/18) (チャペル報告) ※岩手8月、熊本7月</p> <p>・東日本大震災ボランティア報告(10/23) 【野方教会】※岩手8月</p> <p>・東日本大震災ボランティア報告(10/25) 【社会福祉学科授業(ソーシャルワーク実習指導)】</p> <p>・東日本大震災ボランティア報告(10/30) 【西南学院教会】※岩手8月</p> <p>・第5回熊本地震ボランティア(10/22) ※事前研修(10/6) ※チーム研修(10/20) ※事後研修(11/8) 【被災地 NGO 協働センター】 活動場所: 熊本県阿蘇郡西原村</p>	<p>・<写真展> 「世界の子どもたちの笑顔のために」 (10/26～11/1)</p>	<p>・学生サポーター交流会(10/4)</p>
11月	<p>寄付本回収 (ユースの貧困支援)</p>	<p>・大学祭出店(11/17～11/20) ※学生ボランティア団体 *東北や熊本から食材、商品を生入れて販売 (P13参照)</p> <p>・第6回熊本地震ボランティア(11/26) ※事前・チーム研修(11/21) ※事後研修(12/6) 【被災地 NGO 協働センター】 活動場所: 熊本県阿蘇郡西原村</p>	<p>・<写真展&トークセッション> 「世界の子どもたちの笑顔のために」 (11/1)</p>	<p>・ボランティア通信の発行 ※ボランティアセンター学生スタッフ発行</p>
12月	<p>古切手回収</p> <p>ハガキ回収</p> <p>手芸用品回収 (被災地支援)</p>	<p>・第7回熊本地震ボランティア(12/10) ※事前研修(11/8) ※チーム研修(12/6) 【被災地 NGO 協働センター】 活動場所: 熊本県阿蘇郡西原村</p> <p>・東北の仮設住宅へクリスマスカードの送付 ・クリスマスカードの送付 【被災地の子どもたちにクリスマスカードを 届けよう! プロジェクト】(一般・VIP企業企画)</p> <p>・福岡県へ西南水の送付(12/14)</p>	<p>・第14回海外ボランティア・ ワークキャンプ ※事前研修(12/13)</p>	<p>・英語講座(12/10) ～Ready,set,learn! 英語を学ぼう!～ ※学生ボランティア団体 【四国田公民館】</p> <p>・チャリティイベント説明会(12/22) 【NPO法人チャリティスタジアム】</p> <p>・ボランティア通信の発行 ※ボランティアセンター学生スタッフ発行</p>
1月	<p>文房具回収 (カボツア支援)</p> <p>義援金 (被災地支援)</p>	<p>・2016年度 東日本大震災及び熊本地震ボラ ンティア活動報告会(1/12)</p> <p>・東日本大震災ボランティア報告(1/15) 【鳥飼教会】※岩手10月</p> <p>・<交流会> ※漁師の言葉から学ぶ～みんなで語 ろう3.11のこと、未来のこと～(1/18)</p>	<p>・第14回海外ボランティア・ ワークキャンプ ※事前研修(1/17)</p> <p>・第14回海外ボランティア・ ワークキャンプ ※事前研修(1/31)</p>	
2月	<p>西南水募金 (被災地支援)</p> <p>学生サポーター (学習支援他)</p>	<p>・東日本大震災ボランティア報告(2/4) 報告場所: 室見小学校 ※学生による</p> <p>・学生ボランティア交流フォーラム IN 神戸 (2/15～2/17) ※学生参加</p> <p>・熊本地震ボランティア(2/28) 【<くおか学生熊本地震支援実行委員会主催> 活動場所: 熊本県熊本市</p>	<p>・第14回海外ボランティア・ワークキャンプ ※事前研修(2/14)</p> <p>・第14回海外ボランティア・ワークキャンプ (2/17～2/27) ※活動場所: フィリピン 海外ボランティア補助金対象プログラム 活動場所: 中国【F IWC九州】 (2/14～2/26)</p> <p>・海外ボランティア補助金対象プログラム 活動場所: カンボジア【ボラブラ】 (2/24～3/1)(2/24～3/2)</p>	<p>・学生スタッフ研修(2/1) 【(株)ラーニングバリュー】</p> <p>・社会福祉スタディツアー in 久山療育園 ※学生スタッフOPEN企画 (2/16)</p>
3月		<p>・東日本大震災ボランティア報告(3/12) 【姪浜教会】※岩手10月</p> <p>【<くおか学生熊本地震支援実行委員会主催> 熊本地震ボランティア(3/13)(3/15) 活動場所: 熊本県熊本市</p> <p>・くまもとG I N G A - N E T ボランティア (3/19～3/20)【いけてG I N G A - N E T】 活動場所: 熊本県上益城郡益城町</p> <p>・こどもぼうさいフェスタ in ましきボランティア (3/25～3/26)【さくらネット】 活動場所: 熊本県上益城郡益城町</p> <p>・活動報告会(3/29) 「学生による被災地支援を考える ～セクターを越えて連携できる関係作り～」</p>		<p>・《発行物》 2017年度 ボランティアガイドブック</p> <p>・《発行物》 ボランティアセンター リーフレット</p>

2017年度 学院聖句

「見よ、新しいことをわたしは行う。
今や、それは芽生えている。」
イザヤ書 43章19節前半（新共同訳）

 西南学院大学 ボランティアガイドブック

2017(平成29)年4月

発行／西南学院大学 ボランティアセンター
福岡市早良区西新6丁目2-92
TEL 092-823-3662 FAX 092-823-3335
E-mail : swvoc@seinan-gu.ac.jp
URL : <http://www.seinan-gu.ac.jp/volunteer/>

編集／西南学院大学ボランティアセンター事務室

印刷／株式会社 キャンパスサポート西南
SRプリンティングセンター